

## 視察報告書

- 1 視察日時 令和5年10月10日（火）午前10時30分～午後2時00分
- 2 視察先 徳島県板野町「道の駅いたの」  
徳島県鳴門市「道の駅くるくるなると」
- 3 視察目的 所管事務の調査にあたり、他市町の取組を確認する
- 4 視察参加者
  - ・金谷 文則
  - ・実盛 祥五
  - ・福木 京子
  - ・治徳 義明
  - ・大森 進次
  - ・鼻岡 美保
  - ・光成 良充
  - ・下山 哲司
  - ・松田 勲
  - ・大口 浩志
  - ・永徳 省二
  - ・牛尾 直人
  - ・佐藤 武
  - ・佐藤 武文
  - ・原田 素代
  - ・保田 守
  - ・安藤 利博

### 5 視察概要

「道の駅いたの」：板野町議会議長並びに町長以下担当幹部により、防災ステーション（避難所兼備蓄倉庫）避難支援室において、あらかじめ提出の質問事項の回答および説明を受け質疑応答を行い、その後、町担当者および道の駅駅長の案内にて、備蓄倉庫視察、地域振興施設内部視察および周辺施設視察。

「道の駅くるくるなると」：道の駅関係施設、特に物販施設（農産物直売所）を中心に視察。

### 6 所感

「道の駅いたの」においては、町長の公約として首長自らが積極的に進め、町の重点施策として道の駅整備計画を位置づけ、県の地方創生特区の指定を受け、県としっかりした結びつきを持ち進行させてきた。整備基本計画策定委員会を設け、DBO方式により運営事業者を募集し、計画運営を企画実行し、指定管理ながら町からの支出はなく、年1,000万円と売り上げによる利益配分を町が収入している。これも将来に備えての基金として積み立てに充てている。また、地域の生産者と販売品が競合しないよう配慮がなされ、地元の人のための施設とすることが注視される点の一つである。

また、防災拠点としての整備を重点として、施設の整備がなされ、備蓄品も充実し、ヘリポートや災害支援のアマチュア無線局などが整備されていることも注目点として挙げられる。

宿泊施設としても隣接地にビジネスホテルが誘致され、交通の利便性を上げ

るための高速バスなどの停留所が設けられ、他地域への足の便が確保されている点など、高速道路の近くという地の利を生かすという点で、赤磐市の計画に参考になる点が多く見られた。

計画から完成までに5年を要しているという点でも、計画にはある程度の期間が必要であることも、注目点として挙げられる。

また、運営事業者の力量も大変重要であることも、これから赤磐市の計画には重要な要素であることが感じられた。